

健康

元気のポイント

◁96▷



若槻 哲三

徳島大学病院
循環器内科副科長

心臓は、血液を全身に送り出すポンプの働きをする臓器で、非常に力強い筋肉の塊です。心臓の周りを取り巻く血管が、心臓の筋肉「心筋」に必要な酸素や栄養分を供給する冠動脈です。今回のテーマ「虚血性心疾患」は、冠動脈の内腔(内側の空洞部)が狭くなったり、詰まったりして心筋に重篤な障害を与える病態の総称です。主に動脈硬化が原因で発症する狭心症や心筋梗塞症などの疾患があります。命に関わる場合が多く、現在の日本では成人死因の上位を占めています。

虚血性心疾患

の血流を完全にふさぐ血栓ができ、突然、心筋に血液が行き渡らなくなると壊死する状態です。発症直後を急性心筋梗塞症といいます。動脈硬化が進んできていた方や、狭心症患者さんの胸痛や胸苦感が15分程度以上続く場合、急性心筋梗塞を発症した可能性があります。

このように狭心症の症状がどんどん悪くなる病態を不安定狭心症と呼びます。最近では急性心筋梗塞症と同一の病態と考え、病名を「急性冠症候群」と統一しています。一分一秒を争う治療が必要で、胸痛や胸苦感が続く場合は、我慢せずにすぐに病院を受診してください。

冠動脈を狭窄・閉塞させる病変に対しては、一般的にカテーテルと呼ばれる細い管を使って血管内を拡張させる手術が行われます。冠動脈インターベンション治療(カテーテル治療)と呼ばれます。カテーテル治療が適さない病変には、外科的に冠動脈バイパス術を行います。

カテーテル治療には①ステント(金属製の網状筒)植え込み術②風船拡張術③粥腫切除術(アテレクトミ)④血栓吸引術があります。

生活習慣の見直し大切

り、病変の特徴により使い分けます。現在、主流となっているステント植え込み術は、非常に細いガイドワイヤを使い、血管内を通して狭窄・閉塞部位を風船で拡張させた後、ステントを植え込んだ血管の拡張した状態を保持する方法です。以前は、ステントを植え込んでも短期間で病変が進行し、再び血管内腔が狭くなる現象(再狭窄)が問題でした。近年は、再狭窄を抑える薬物が塗布されたステント(薬剤溶出性ステント)が次々に改良され、さらに良い治療成績を得ています。また、植え込んでから数年で血管に溶け込んでしまう次世代の生体吸収性ステントが、もうすぐ臨床使用可能となる予定で、体にも優しく、効果も期待されています。

カテーテル治療は、迅速に処置できる上に、体への負担が少ない非常に優れた治療法です。医療器具や手技の進歩により、最近では手首に局所麻酔をして細い血管から治療することが多く、体への負担はさらに小さくなっています。しかしながら、虚血性心疾患は生活習慣に大きく関わる病気なので、治療よりも予防が大切です。予防には▽血圧管理▽血中脂質(コレステロール)の管理▽糖尿病予防と治療▽禁煙期間で病変が進行し、再び血管内腔が狭くなる現象(再狭窄)が問題でした。近年は、再狭窄を抑える薬物が塗布されたステント(薬剤溶出性ステント)が次々に改良され、さらに良い治療成績を得ています。また、植え込んでから数年で血管に溶け込んでしまう次世代の生体吸収性ステントが、もうすぐ臨床使用可能となる予定で、体にも優しく、効果も期待されています。



【左】冠動脈が詰まり急性心筋梗塞を発症した60代男性の冠動脈造影画像
【中】ステントで血管を拡張【右】再び血液が流れ容体が安定

胸痛続けばすぐ受診を